

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772001745		
法人名	株式会社ユニマツト そよ風		
事業所名	グループホームあびこケアセンターそよ風		
所在地	大阪市住吉区我孫子東3-3-11		
自己評価作成日	平成24年4月3日	評価結果市町村受理日	平成24年5月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成24年4月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の希望があった場合は、医療機関と連携しながらターミナルケアを実施する</li> <li>・利用者が楽しみにしている外食レクや散歩等外に向ってのレクを実施し、開放感を感じてもらえる様な雰囲気作りを心掛けている</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人の(株)ユニマツトそよ風は、37年の歴史を持つ臨床検査研究所の介護部門として設立された。デイサービス、グループホーム、有料老人ホーム、高専賃等、446事業所を全国展開している。「グループホームあびこケアセンターそよ風」は、その事業所の一つで平成17年7月に設立した。「年を重ねても自由で自然に楽しく、そして健やかに暮らしたい」という高齢者の願いに応えるように様々なサービスを提供している。コンセプトは「医」「食」「住」+「学」という。医療連携によりターミナルケアにも対応し、食事はあくまでも利用者本位で希望を聞きながらユニット毎に厨房で調理している。ゆったりとした居室に書道教室で学んだ書が表札となっている。利用者は、皆元気で明るい。にこにこしながら「美味しいな、美味しいな」と、幾度も幾度も言っていた利用者の顔が脳裏から離れない。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念として「共に生きる」を掲げ地域との交流も含むとされている職員はそれを理解し保育園の運動会に見学に行ったりクリスマス会に来てもらい楽しく歌を唄ったりと取り組んでいる	管理者と職員は「地域と信頼を育み共に生きる」と事業所独自の理念を作りあげ、事業所に掲示すると同時に、毎日、朝礼で唱和しながら共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的ではないが食事レクとして月に4~5回は近くの和菓子屋さんや寿司屋、お好み焼き屋さんに行って食事やお茶を飲んだりしている	地域の行事やふれあい喫茶へ出向いていって近隣の方々と交流したり、ホーム長がネットワーク委員会の方々と高齢者介護の仕方について話しをするなど、双方向で日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に行った際に近所の方と交流する事もあり、暮らしぶり等を話されたり取れたての野菜や花を頂いたりする事もある	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事内容や事故報告書等の報告だけで終わってしまわない様に、合同レクの日に開催するようにして利用者様の様子をご家族様に見てもらえるように心がけている	利用者、利用者家族、民生委員、区社協、地域包括、事業所職員等が参加して、3ヶ月に一度サービスの取り組み内容や状況について報告するとともに意見や提案を受け、それらをサービスの向上に活かしている。	地域との連携によりサービス内容を明らかにすると共に、サービスの質の確保を図るために設けられた会議である。基準省令に定められている2ヶ月に一度以上の実施を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の家庭訪問時、色々な相談をして意見を頂いている	区役所の生活支援グループの担当者とは、事業所への訪問時に、事業所の実情やサービスの取り組み等について伝えながら協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ないケースでも時間を決めて出来るだけ拘束なしで行ける方向で努めています	事業所の管理者および職員は、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を十分理解し、ユニット毎の玄関は施錠せず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に一回の勉強会等を通して再確認して介助を行うようにしている	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を利用して、個々に浸透していけたらと思う		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時間は、十分に取り、理解、納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に生活記録を面会時に見てもらい、疑問や要望を聞く様になっているし、家族会を設け意見交換を行っている	運営推進会議の他に、意見箱や家族会を設けるなどして利用者家族等の意見を積極的に聞くようにしている。それらの意見は、会議で話し合い運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りノートを活用し意見や提案を取り入れる様にし、会議で意見の交換を行っている	月に一回、職員会議を行い、シフトや接遇、利用者急変時の対応に関する事など、運営に関する職員の意見を聞く機会が設けられている。それらを運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約満了前に一人一人面談を行い意見を聞き出来る事は取り入れている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は自由に閲覧出来る様にしており実際にスタッフが研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市社会福祉研修・情報センターの研修に積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に利用者、利用者のご家族と面談をし暮らし等の間取りを行い入所されてからの不安を軽減出来るように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にご家族の思いを聞いたりケアプランを見てもらい意見を聞き要望を取り入れるようにしている家族会では、ご家族とコミュニケーションを計る様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランを導入する前にご家族に確認を取る様にしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々認知度も進みADLの低下していく中で入所されて間もない時はお元気で時には笑顔に癒された事等を思い出し、接するよう心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お誕生日、個別レクリエーション等は参加を促しふれあう時間を大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知が進み、馴染みの人や場所を覚えている人が少ないが地域の保育園に訪問したり、来てもらったりして喜んで頂いている	利用者本人と地域社会との継続を維持していくために、馴染みの人や場所への訪問を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人同士で行動される事が多いが居室等に入りっぱなしにならない様に声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いで報告を聞く様になっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向に添える様に努めている	利用者本人が何処でどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で聞き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン検討時にセンター方式を活用している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時の際、特変のなかった方でも声かけを行い様子等を把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時、担当者会議を開き主治医や家族の意見を聞いている	利用者がその人らしく暮らすことが出来るように、本人、家族等や必要な関係者と話し合い、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送りノートを把握しスタッフ間で共有し見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活の場として安全を第一に過ごせる様出来る限り柔軟な対応を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園への訪問やボランティアの方の音楽演奏はとても楽しみにされ、喜んで参加されている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医により週に一度訪問受診があり、必要があれば希望の病院を受診します	これまでのかかりつけ医を希望する利用者には、家族等の協力により、継続的な受診が行われている。その他の方は、家族の納得と同意を得て、提携医により週1回の訪問医療が受診できるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中はデイ、ショートのアナウンサーの協力により日常の利用者の健康管理に留意している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はケースワーカーと密に連携を取り一日も早く退院出来るように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や状態に変化があった場合はその都度身体の状態によって医師とご家族に連携を取り方針を決定している	契約時の家族アンケートにより、終末期ケアを希望するかしないかを聞き出している。重度化した場合は、その都度関係者と話し合いを持ち確認書を取りながら方針を共有している。過去、数名の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変によりターミナルを迎えた方が数名おられ実践を通して体験し実践に生かしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施し非常時に備えている	年2回消防署の立ち合いの下、夜間想定も含め避難訓練を実施している。夜勤の1ユニット1人体制でベランダに避難誘導させる対策を立てている。消火器、スプリンクラー、備蓄も整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応の仕方は常に注意をはらう様指導している	利用者への呼びかけは優しい雰囲気、さりげなく見守り、一人ひとりに応じた丁寧な対応をしている。個人情報 は 詰所の書庫に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から気づきを大切にどんな小さな事でも見のがさない様に心がけ利用者の思いに対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝のバイタルチェックの後、天気や入浴者等の体調によりレクリエーションスケジュールを決めています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケア時に鏡を見て自ら整髪してもらったり洋服選びをしてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の体調にもよりますが調理の準備を手伝ってもらったり食器を拭いてもらったりしています	契約時の食事アンケートにより食事の量や好きなもの、嫌いなものを把握し、体調を考えて献立に反映させている。職員は利用者と共に食事をすると介助専任に分かれ、和気あいあいと食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減を把握しながら記録に残す様にしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診歯科より指導を受け、その人に合った歯磨きや歯間ブラシ等を使用し出来る方はご本人で困難な方は介助にて行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握しトイレを促したり、誘導したりしている	一人ひとりの排泄チェックにより排泄パターンを把握し、一覧表にまとめ活用している。夜間はポータブルを利用して担当の職員がチェックをしながら誘導を行い、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しや玄米を使用し歩行訓練等も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤や落ち着いた環境を整え入浴が楽しいと思ってもらえるようにしている	お風呂は週4日が入浴剤を使用して入浴が楽しめるように支援している。浴槽は、こじんまりとして家庭的雰囲気があり、洗い場は広くゆったりとしている。脱衣場には鏡台が置かれ、整容支援の工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝前は落ち着いて頂けるよう声かけや居室の環境整備を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カンファレンス等で理解を深めケアプランにも上げた上で服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞やパンを取りに行ったり、皆の先頭に立ち歌を唄ってもらったりして気分転換を計ってもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のお好み焼き屋、寿司屋に行き喜ばれている	その日の体調を考慮しながら、日常的には近くのあびこ観音や施設前の畑に野菜や花を見に出かけたり、スーパーやふれあい喫茶などに出向き、地域の人々と交流している。電車に乗って長居公園などに遠出することもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で金銭管理する事で安心される方は所時してもらっている出来ない方に関しては事務所で預かっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけれる方は居られないがご家族が納得の場合はスタッフが援助する		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダの菜園に水やりを手伝ってもらったり洗濯物を干す際に窓を開放し季節を感じてもらっています	リビングダイニングは程よい明るさで、台所からの食事の匂いが食欲をそそる。壁面には季節の桜やこいのぼりが、色紙で構成されている。パブリックスペースには豪華なソファが置かれ、日当たりも良く、くつろげるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは全員がくつろげる事ができ廊下の奥にもソファを置いてお茶を飲んだりCDを聞いたりしてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族には安全で馴染みのある家具をお願いしている	各居室の入口には、書道教室で利用者の書いた大きな表札を掲げ、目印となっている。室内には、洋服ダンス、机が備え付けられ本人の馴染みのものを配置し居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	どこにでも手すりがあり動きやすく居室の入り口やトイレには大きく表示して分かりやすくしている		